

## 15th European Congress of Sport & Exercise Psychologyにおける研究発表

村川大輔\*

### はじめに

令和元年7月15日から令和元年7月20日まで、ドイツのミュンスターにあるミュンスター大学にて開催された15th European Congress of Sport & Exercise Psychology（第15回ヨーロッパスポーツ心理学会）に参加した。令和元年度機能強化経費（国際学会発表等旅費）の助成を受け、FEPSACにて自身の研究成果の一部を発表する機会をいただいた。本稿では、学会大会の様子および発表内容について報告する。



図1 学会会場（ミュンスター大学）

### FEPSAC について

FEPSACは、スポーツ心理学の分野での科学の進歩と、スポーツ、運動、健康などのさまざまな分野での科学の応用を目的に、1969年に設立された欧州スポーツ心理学連合組織である。現在では、国際的な意見交換を行うために、4年に一度開催される学会大会において、研究成果の発表および討論が行なわれている。FEPSAC設立50周年の記念大会である本学会大会には、世界中からスポーツ心理学領域の研究者が参加する非常に規模の大きい学会大会であった。また、数多くの研究発表やシンポジウムが朝8:30～夕方まで絶え間なく開催され、夕方以降にはミュンスター大学の学生プログラムを通して参加者間の交流が深め

られていた。

### 研究発表について

私が今回発表した研究テーマは、「Do domain-specific perceptual abilities operate outside of conscious awareness?」でありポスター発表を行った。サッカー選手の潜在的な知覚能力は領域固有に発揮されるのかについて検討したものであった。参加者からは方法論上の指摘を受け、実験デザインについて再検討するきっかけを得ることができた。また、発表時以外にも、様々な研究者と自身の研究内容に関してディスカッションをする機会を頂くことができ、とても有意義な時間となった。

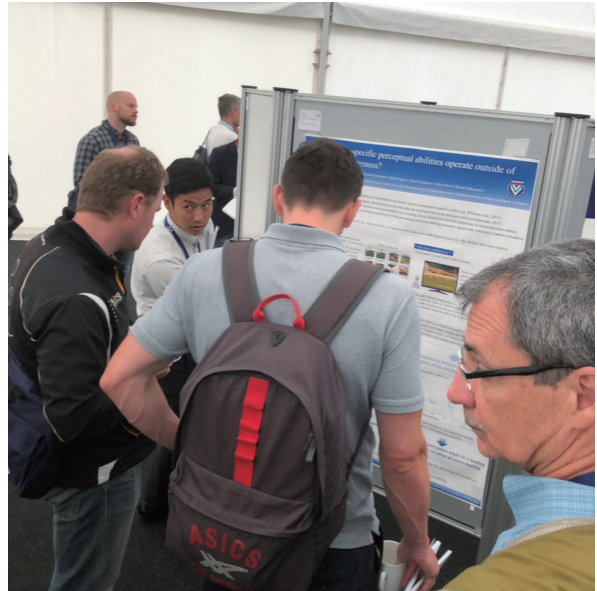


図2 発表時の様子

### おわりに

初めての国際学会への参加であったが、非常に有意義な経験となった。学会発表を通して自身の

\* 鹿屋体育大学大学院研究科博士後期課程2年

研究課題に新たな展開を期待できる知見を得ることができ、学会参加の意味を改めて感じた。今後も積極的に学会に参加できるよう研究を進めていきたい。また、同年代の研究者が慣れない英語を使いながらも口頭発表をしていることに刺激を受けた。最後に、本学会大会に参加・発表するにあたりご支援いただいた森司朗副学長、中本浩揮准教授および共同研究者の皆様、本学職員の皆様に厚く感謝の意を表します。



図3 研究者との交流の様子